

# 東京高連ニュース

発行  
東京高齢期運動連絡会  
電話03(5956)8781  
FAX03(5956)8782  
em:tdyo.kureiki@gmail.com  
発行人：福井典子

## 多摩地域の先陣を切って 条例化(三鷹市) 補聴器購入費助成制度実現へ

補聴器の助成は23区内では15区で実現していましたが、三多摩で初めて、三鷹市で実現することになりました。年金者組合三鷹支部の印南さんから送っていたいただいた支部ニュースの記事を転載します。

2月16日、市の予算案が発表され予算額が計上されました。①対象年齢 身体障害者を除く18歳以上の

難聴者

②所得制限 210万円未満

③助成額 費用の2分の1かつ限度額4万円

④予算額 三鷹市一般会計559万8千円

東京都包括補助金45万8千円 合計10万4千6百円

⑤実施予定時期 2022年10月

(補足説明)

・聴力70デシベル以下の人。

・所得210万円未満とは、介護保険料の7段階、シルバーパスを10000円で購入できる人。市の説明による

と高齢者の78%が該当すること。

年金者組合は、助成制度実現に向けて、昨年9月「聞こえの学習

会」を実施、同11月生活と健康を守る会と連名で市長あて「要望書」を提出してきまし

また、共産党市議団が過去の条例提案否決を乗り越え昨年12月議会にも条例提案をしました。が自民党、令和山桜会、公明党などの反対で否決される経過がありましたが、みんなの粘り強い取り組み等が、市長を動かし実現することになり、大きな成果を勝ち取るこ

粘り強く取り組みが要求が実現することの重要なことも改めて認識しました。

今後の課題は、条例案の学習会や補聴器助成を申請する方をサポートする相談会などを他の市民組織にも呼び掛け、実施できるように検討してまいります。

(印南泰成)



## ゆたかな高齢期をめざす 東京のつどい第2分科会 「介護保険制度の抜本的 改革提言案 学習会」を開催

2月5日午後、介護をよくする東京の会が担当団体となつて、ゆたかな高齢期をめざす東京のつどいの第2分科会が行われました。

中央社保協が提案・論議を呼びかけている「介護保険制度の抜本的改革提言案」に関する学習会を会場とWeb併用で開催し、50名(会場17

名、web33名)が参加しました。ホームペーパー全国連絡会の森永伊紀さんが改革提言案について講義を行いました。

森永さんは、保険証があっても介護認定されなければサービスを利用できない、認定されるまで平均30数日かかる、認知症でも要介護3以下、要介護5でも1日に1時間の訪問介護サービス3回で上限額。日中毎日のデイサービスで上限額に達し、超えた分は全額自己負担になる等、介護保険の仕組みとサービスがどの様に使えるのかを解りやすく説明。都内であと30施設くらい建設しないと特別養護老人ホームの待機者は解消できない、結局介護離職しないとまらないなど、サービス提供が家族介護を大前提としており、その結果、介護自殺・殺人・心中を招くような世の中の良いのかと制度の問題点を指摘しました。施行20年経過する中で、改善され続けてきた介護保険制度を本来の姿へ転換させる制度の「再設計」を示したのが抜本的改革案だと述べ、さらにこの提言

では、さらなる制度改悪を許さないための当面の「緊急改革」案も同時に提起している。解説し、現状、抜本改革案 緊急改革案 政府の改定案それぞれを課題ごとの項目表で比較しながら解りやすく説明しました。

続いて居宅支援事業所の石田美恵ケアマナー ज्याが、制度改悪でサービスを削らざるを得なくなる実態を自身の苦労話も交えながら具体的に告発。訪問介護事業所の有賀隆人介護福祉士が、訪問時間短縮の改悪で訪問時には作業のみで、利用者対話する時間を削らざるを得なかったり、宅配弁当が主になってしまいうなど、専門性が発揮できない現状を告発しました。

参加者からは「介護保険がすぐ使えないとは愕然とした、一人暮らしで心配」「もっと学習しないと学ばない」「現物給付にして、必要に応じた給付にしなければならぬ」「政治

治のしくみを変えないと実現できない」「署名を国会に提出した。介護の運動は広範な介護団体に広がっている、希望を持っていきたい」などの意見・感想が寄せられました。

最後に東京社保協の窪田さんがまとめ、国民的な論議を起こして、介護をみんなが利用出来る人権を守る制度にしていこうと訴えました。(東京社保協ニュース引用に菅谷加筆)



# 年金者組合が署名推進委員会設置

## 75歳窓口2倍化中止署名57万筆越す 参院選前の運動を強化しよう

年金者組合東京本部は、75歳以上の医療費窓口負担2倍化の中止を求める署名と、年金・雇用法改悪を許さない署名を3つの重点署名と位置づけ、都本部に署名推進委員会を設けました。

推進ニュースを発行して運動の前進をはかっています。昭島では、年金支給日

などの宣伝行動で毎回署名を呼びかけ、組合員数を大きく上まわる署名を

集めています。

杉並では、年金者組合の杉並支部と杉並社保協が共同して2月にはバレンタインデー行動を行うなど、共同を広げ大勢が参加して宣伝を進めています。板橋では、公害被害者の運動を行っている仲間

### 全国署名57万筆に

全国では、75歳以上の患者負担2倍化中止を求める署名は、合計57万を越えました。署名は、昨年の秋から取り組まれてきました。この間1月28日、2月18日、3月2日の3回の提出集会が行われました。2倍化中止単独の署名は現在約20万筆集まっています。今年はいのち署名にその1項目として75歳患者負担2倍化中止が取り入れられ、3月2日までにおよそ21

が、公害被害者団体に署名を広げ、8百筆を上まわる署名を集約しています。

練馬では、年金者組合練馬支部が返信用封筒をつけて組合員に署名を広げることを訴え、4百筆をこえる署名を集めています。

### 3回の署名提出集会

この間3回の提出集会が行われ、学習、決起の場になっています。内容はユーチューブなどで配信され、後からでも視聴できるようになっています。参加できなかった方は、是非ご覧ください。ぜひご覧ください。

1月28日の集会は、75歳以上の医療費2倍化中止署名、新しいのち署名、介護保険の抜本的転換署名、年金と雇用署名の4つの署名の統一提出集会として行われました。横山壽一さん(佛教大学教授)が社会保障拡充のたたかいについて講演しました。集会の様子は中央社保協のサイトから見られます。

2月18日の集会は、2倍化中止署名だけの提出集会として行われました。集会では、唐鎌直義さん(佐久大学特任教授)が講演しました。日本とフランスは経済のレベルはほぼ同じです。しかし日本の社会保障はフランスに大きく遅れています。唐鎌さんは具体的なデータに基づいて比較し、運動の方向を提起しました。

https://youtu.be/12ek3xMGvo に動画がアップされています。

# 最後まで諦めず 署名・国会議員要請・ 学習決起集会などの取り組みを

■通常国会の会期末6月10日までをめどに引き続き中止署名を広げましょう。

■地元からの声が国会議員を動かします。国会議員に中止署名に賛同し、紹介議員になることを要請しましょう。

■短時間でも学習、決起の場をもちましょう。

後期高齢者医療制度導入時のたたかいをふり返り運動の展望を語る 前澤淑子さん(当時の東京社協事務局長)の訴えが、ユーチューブに上がっています。ぜひ学習会で利用して下さい。URLは、<https://youtu.be/8iYHqIgoIYw>。

東京高連作成のブックレットを学習に活用しましょう。

■高齢者実態調査の取り組みにご協力下さい。調査のお願いと調査用紙は東京高齢期運動連絡会の

サイトからダウンロードできます。



## プーチン政権のウクライナ侵略に抗議 地域から戦争許さないの 声大きく!

プーチン政権のウクライナ侵略は許すことができません。

侵略を糾弾する行動は、全都に広がり、連日各地域で抗議行動が取り組まれています。

日野では、3月5日市民会館小ホールで緊急集会を行いました。「アベ政治をゆるさない日野市民連合」が呼びかけ、およそ130人が参加。集会後抗議パレードを行

### 極めて重要な 参議院選挙

参議院選挙が6月22日告示7月10日投票で行われます。

「全世代型社会保障」の名で、社会保障切り捨てを進める自公政権与党が伸びるか、命と暮らし

を大切にブレずにつらぬく野党が伸びるか、極めて重要です。大企業と富裕層だけを大切に、社会保障を壊す政権に参議院選挙で厳しい審判を下しましょう。



よう!ふちゅう市民連合」が「ロシアはウクライナからただちに撤退・緊急市民アピール行動」を呼びかけ、3月5日午後ケヤキ並木フォリス前に51人が手作りのプラカードや横断幕をもってならば、戦争反対を訴えました。府中では毎月11日に行われている「福島応援OnSong」の行動がけやき並木で100名の参加で行われ、今回は福島応援に加えてウクライナ侵略反対の訴えが行われました。

小金井での行動が3月12日の三多摩革新懇の総会で報告されました。2月28日武蔵小金井駅頭の反戦アクションに40人が参加、3月6日には、

金井駅南口と北口両方で宣伝を行いました。行動には「生活ネット」「カエル」「共産党」の市議会議員や漢人あきこ都議会議員(緑・統一候補)も参加しました。

国立の行動も3月12日の三多摩革新懇総会で発表されました。「三多摩青年合唱団」は、3月5日国立駅前でスタンディング行動をおこないました。当初10数人参加という予定でしたが、合掌団員が友人に声をかけのりで拡散して50人近くのスタンディングとなりました。

たまたま通りかかったウクライナ人の男性は「ウクライナの現状はテレビで報道されているより、もっと深刻です。どうかみなさんウクライナを助けてください」と涙ながらに訴えました。

3月12日には、2回目のスタンディングにとりくむ「三多摩青年合唱団」と、戦争反対にあわせて、憲法署名を訴える「国立土曜夜会」の仲間と一緒に南口に訴えと歌声が響き合いました。

# 第35回日本高齢者大会 京都大会

## 11月23日(水・祝)24日(木)

### 記念公演は 山極 寿一さん

今年の日本高齢者大会は、11月23日・24日に京都で行います。各地域、各団体から参加の取り組みをはじめましょう。

大会は、基本的に京都にみんなが集まる形を想定して準備されます。23日が講座・分科会、24日が全体会です。全体会と1つか2つの分科会をオンラインで全国に配信することが検討されています。

24日の全体会の記念講演は、山極寿一さんに決まりました。山極さんは、霊長類学者・人類学者、総合地球環境学研究所所長。前京都大学総長です。ゴリラを主たる研究対象として、日本学術会議議長などを歴任した方です。

人間社会について深い見識を持ち、幅広く発言しています。「ゴリラとヒトの間」「京大というジャングルでゴリラ学者が考えたこと」など多数の著書があります。

大会スローガンは「まちから村からの連帯でひとりぼっちの高齢者をなくそう」

サブスローガンは「高齢者も若者も手をつなぎいのち・くらしを守る政治！」

憲法を生かし『高齢者人権宣言』で豊かに！」です。

●1日目11月23日(木・祝)は、学習講座・分科会・移動分科会が午後1時30分から4時30分に行われます。会場は、同志社大学今出川キャンパス

## 多彩な内容準備中

日本高齢期運動連絡会と、京都現地実行委員会が相談しながら企画を進めています。「世界の高齢者との交流」「高齢者人権宣言の学習。討議」「ジェンダー平等」「憲法をくらしに生かす」「気候変動」などの学習講座、「基地問題」「原発」「地方における交通権」「社会保障のたたかい」「高齢者の就労」「マスコミの右傾化」

「高齢者の生きがい語ろう・若者との交流」など分科会テーマについても

検討中です。東京からは、孤立問題、介護、認知症など高齢者が直面している問題を議論できる場を充実することなどの意見を出しています。移動分科会、文化交流会、利き酒会、茶会なども準備されます。

企画の最終確定は5月の日本高齢者総会・中央実行委員会になります。企画についての意見は、引き続き東京実行委員会にお寄せください。

## 東京から350人越す参加をめざす

東京実行委員会は、東京から350人を超える参加をめざします。3月14日の実行委員会では議論を行い京都大会への参加の取り組みの大きさを決定しました。東京実行委員会として、琵琶湖グランドホテル(大津市雄琴・宿

泊料金一泊13000円)です。行き帰りの新幹線と現地での移動用のバスを確保しています。今回は基本的に交通・宿泊・参加をセットにしたAコースと、大会参加のみのBコースの2つだけで募集を行います。実行委員会としては、

プラス1泊などのツアーは企画しません。また、地域で、独自にツアーを組む場合は、23日の宿泊は、ぜひ東京実委で確保したホテルを使うようにお願いします。

5月16日(土)14時から豊島区東部区民事務所で、東京実行委員会を行います。ぜひ各地域、各団体からご参加下さい。

## 全地域で参加の取り組みを

今年も年金が下げられます。一人暮らしの高齢者が増え続けています、介護がなかなか受けにくい、認知症になつたらどうしよう。不安は尽きません。地域で高齢期の問題に取り組んでいる団体が力を合わせることもとても大切になっています。

高齢者大会に地域で協力して取り組むことは良いきっかけになります。高齢期運動連絡会や高齢者大会実行委員会などがない地域は、京都大会参加の取り組みをぜひ生かして下さい。高齢者大会参加の取り組みのご相談は、東京高齢期運動連絡会にお寄せ下さい。